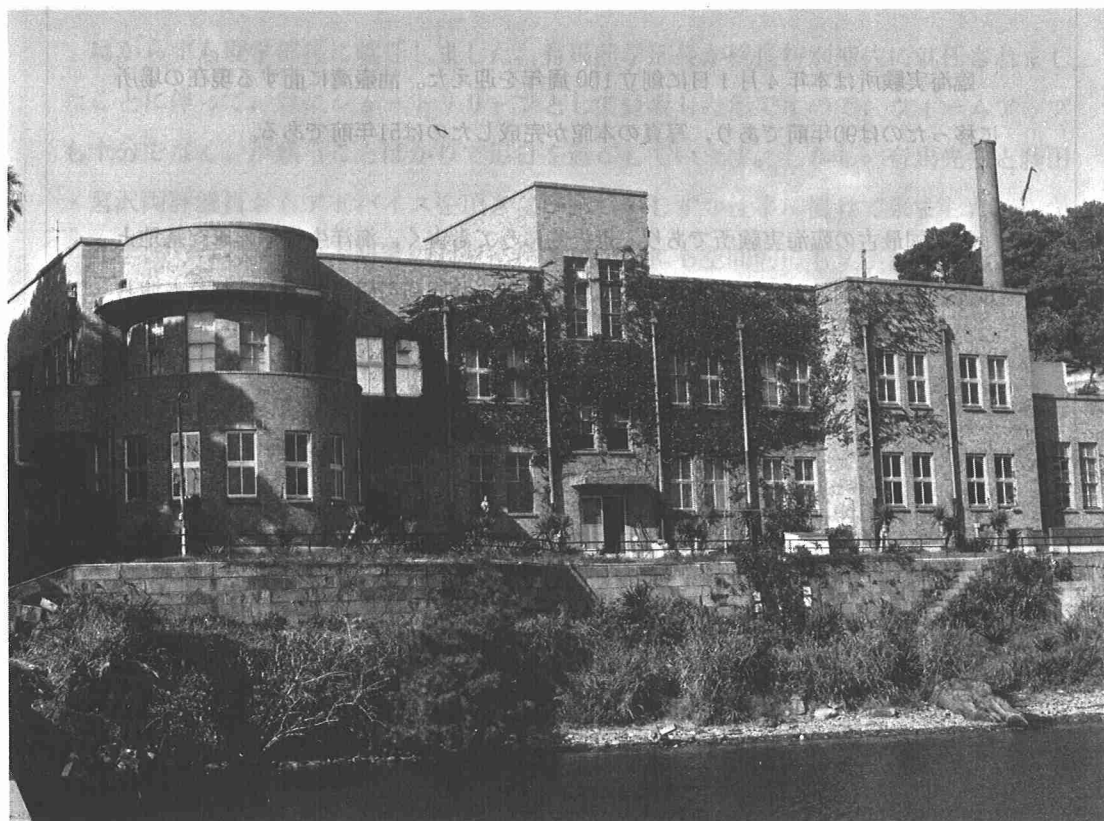


東京大学理学部

廣報



目次

表紙の説明	1
巻頭言	
学部長就任にあたって	朽津耕三 2
臨海実験所創立200周年について	水野丈夫 3
《学部消息》	5

表紙の説明

理学部附属臨海実験所本館（油壺湾側より写す）

臨海実験所は本年4月1日に創立100周年を迎えた。油壺湾に面する現在の場所に移ったのは90年前であり、写真の本館が完成したのは51年前である。

我が国最古の臨海実験所であり、世界的にみても古く、海洋生物学の研究基地として、国内、国外からの研究者が集まり、一種の共同利用研究所的な役割も演じている。

動物学教室 水野丈夫

巻 頭 言

学部長就任にあたって

理学部長 朽 津 耕 三

はからずも理学部長に就任しました。有馬前学部長が総長特別補佐に就任されたことに伴って、急にショートリリーフとして登板した形ですので、ウォームアップも十分でなく、戸惑うことばかりで毎日を過ごしています。しかし、有馬先生と藤田・宮沢両評議員からアドバイスを頂きながら、少しずつ仕事に慣れて来ました。

理学部で行われている研究の対象には、時間的にも空間的にも文字どおり桁ちがいの多様性があり、研究の場所も世界の隅々にまで及んでいます。研究の方法論も、きわめて多岐にわたっています。しかし、40年に近い理学部での生活の中で私が痛感するのは、この多様性よりもむしろ、基礎自然科学の研究者の誰もが共通に持っているスピリットです。うまく表現できませんが、おそらく自然現象—その多様な個性と厳密な法則性—に対する愛着と好奇心が、研究領域を超えて理学部構成員を結びつけている絆ではないでしょうか。

20才台の前半は、理学の研究者にとって最も貴重な時期だといわれます。理学部在籍者の過半数はこの世代の諸君です。この世代の人々の創造的活動が最大限に行われ、理学部から優れた業績が最大限に生み出されるようにするには、どんな研究教育の場を築けばよいのか？ そのために私たちは何をすればよいのか？ “理学院構想”の原点はここにあると思います。

今年度は、私たちの長年の悲願であった理学院構想が、全学の動きの中で進展を期待できそうな機運にあります。また、今年度末に時限を迎える中間子科学実験施設の改組拡充計画、東京天文台の国立研究所への移行計画、臨海実験所の建物の改築計画をはじめ、理学部の前途にとって重要な多くの計画を強力に推進すべき時期でもあります。皆様の御協力と御注意を頂きながら、そして戸張前事務長に代わって着任された野島事務長はじめ事務部の方々とも力を合わせて、理学部発展のために私の持つ力のすべてを投入してゆきたいと願っております。

臨海実験所創立100周年について

(日本の海洋生物学100年記念事業委員会委員長)

水野 丈夫

三崎に臨海実験所が創立されてから今年で丁度100年になりました。実験所周辺は地形の変化に富む上、相模湾の深所も間近かにひかえ、黒潮の生物もやってきて、きわめて豊かな生物相に恵まれています。理学部に動物学教室が誕生したのは明治10年ですが、モース、ホイットマン両教授のあとをついだ箕作佳吉教授は、明治18年に三崎の北条湾に面する入船の幕府船番所跡に土地(70坪)を入手し、そこに木造2階建(実験室1、採集品仕分室1、標本室1、図書室1、寝室2)の実験所を建設しました。落成は明治19年12月13日。翌明治20年(1887年)4月1日に「帝国大学臨海実験所」と正式に命名されました。この臨海実験所がつくられたのは、世界的にみてもかなり早い時期であります。当時、ダーウィンやヘッケルなどの進化論者により刺激を受けた19世紀後半の生物学者たちは、広く動物の各部門にわたって比較解剖学の必要性を痛感するとともに、比較発生学もまた進化・系統を明らかにする上で重要であるため、陸上よりも豊かな生物相をみせる世界各地の海辺に続々と臨海実験所を建設していました。わが三崎臨海実験所の創設は世界におけるこのような気運のまっただ中に行われ、イタリアのナポリ臨海実験所、フランスのヴィルフランシュ臨海実験所などに続くものの、英国のプリマス実験所や、米国のウッズホール海岸生物学研究所の創立(1888年)に先立つものであります。しかし、当時の日本は、日米和親条約を契機として外国との国交を開いてからわずかに30年をこえたにすぎず、また、箕作教授も28才の若さであったことは驚くべきことであります。

やがて、三崎の町は発展し、北条湾の海も汚れ

てきたし、来訪者を収容しきれなくなったので、入船の北方、油壺湾に面する小網代の現在地に移転しました。この場所は北条早雲によって亡ぼされた三浦一族の居城のあとで、亡霊がでるといった人々が寄り付かない閑静な場所がありましたし、海岸線が変化に富んだ点でも入船の実験所よりはるかに優れていました。時に明治30年(1897年)でした。それからというものは、魚類学者ディーン、ジョルダン、棘皮動物研究所モルテンセンなど、欧米の研究者がしばしば実験所を訪問するようになり、早くより国際化されて、近代的な動物学の基礎を築くための前線基地として重要な役割を演ずるようになりました。

三崎臨海実験所のその後の歴史は「東京大学百年史」(1987年発行)や「東京大学理学部附属臨海実験所の百年」(編集責任者：磯野直秀, 1987年発行)を参照下さい。現在の本館は昭和11年(1936年)4月に竣工しましたが、すでに半世紀以上を経過し、ちょっとした雨でも必ず室内は水びたしになり、レンガは頭上より落ちるばかり、台風が来れば一部屋ごと吹きとぶといった、廃屋寸前のありさまになっています。臨海実験所が果たすべき正当の役割を考えると、このままでよい筈がなく、100年の節目に全面改築され、機能化されることが強く望まれています。

なにはともあれ、日本最初の海洋生物学の研究教育施設として創立された三崎臨海実験所は、本年4月1日に100才となったわけで、これを記念するため、日本の海洋生物学100年記念事業委員会(委員長：水野丈夫臨海実験所長)がつくられ、同委員会は去る4月2日、山上会館において記念式典と国際シンポジウムを挙行了しました。

式典には魚類分類学の専門家でもあられる皇太子殿下、ならびに皇太子妃殿下のご出席のもと、森 巨総長挨拶、水野丈夫委員長式辞に続き、皇太子殿下、塩川正十郎文部大臣、J.D.イバート米国ウッズホール海洋生物学研究所元理事長、刘瑞玉中国科学院海洋研究所長、江上信雄日本動物学会会長、渡辺 浩国立大学臨海・臨湖実験所長会議議長の祝辞があり、唐沢俊二郎郵政大臣より「海洋生物学100年記念」の記念郵便切手が委員長あて伝達されました。また、世界各地の臨海実験所より祝電が寄せられ、披露されました。また、式典終了後は、同じく山上会館一階ホールで祝賀パーティが開催されました。

国際シンポジウム(王子セミナー)「海洋生物学の進歩と展望—細胞・発生生物学への貢献—」は4月2～4日の3日間にわたり、山上会館において行われました。総参加者数193名。うち、国内168名、国外25名で、国外参加者は中華人民共和国、米国、カナダ、フランス、ベルギー、スウェーデンから招へいされました。セミナーでは、世界各地で第2世紀に突入した海洋生物学の使命と正当性、その未来に対する批判と重要性が論ぜられたほか、かつて三崎臨海実験所で世界にさきがけてなされた数々の発見がひきがねとなって生れ

た新しい研究成果が幾つも発表され、注目を集めました。数多くの優れた発表にフロアからも活発な質問が出され、最後まで熱心な討論が続けられました。セミナーが終了したのちも、各所でグループまたは個別な論議がなされ、特に若い研究者、大学院学生諸君にとって刺激的かつ有意義な国際セミナーになりました。本セミナーの詳細については「生物科学ニュース」5月号を参照下さい。

4月5日は、セミナー招待者と特に三崎臨海実験所に縁の深い方々を実験所に招いて、臨海実験所100年の誕生を祝いました。集うもの、海外参加者をふくめて100余名でした。折りから晴天に恵まれ、満開の桜花のもと、祝宴が行われました。参加者はいまお見せる三崎の磯の景観に感動し、100年の間、使いふるされた実験所の歴史をかえりみ、またあるものはセミナーの続きの議論をするなどしたのち解散しました。外国人有志は翌4月6日に古都鎌倉を訪れたのち帰京しました。

なお、本記念事業は有馬朗人前理学部長、戸張喜之前理学部事務長を含む記念事業委員をはじめ、理学部事務部のすべての方々、動物学教室の方々のご支援とご協力により行われたものであり、のみり豊かに終了することができました。ここに記して厚く感謝する次第です。



王子セミナー(山口会館) 4月3日



臨海実験所における祝宴(三崎、4月5日)

《学部消息》

教授会メモ

62年3月18日(水) 定例教授会

理学部化学本館5階講堂

- 議 題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 物品の寄附受入れについて
(4) 東京大学理学部附属地殻化学実験施設規程の改正について
(5) 昭和61年度卒業者の決定について
(6) 学部研究生の入学について
(7) 学部研究生の期間延長について
(8) 受託研究員の受入れについて
(9) 昭和62年度民間等との共同研究
(10) 人事委員会報告
(11) 会計委員会報告
(12) 企画委員会報告
(13) 企画委員会建物小委員会報告
(14) 企画委員会大学院構想検討小委員会報告
(15) 理学部長候補者の選出について
(16) その他

62年4月15日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議 題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 物品寄附受入れについて
(4) 昭和62年度私学研修員の受入れについて
(5) 人事委員会報告
(6) その他

62年5月20日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- 議 題 (1) 前回議事録承認
(2) 人事異動等報告
(3) 奨学寄附金の受入れについて
(4) 物品寄附受入れについて
(5) 昭和62年度工業技術院流動研究員の受入れについて
(6) 人事委員会報告
(7) 会計委員会報告
(8) 企画委員会報告
(9) 企画委員会建物小委員会報告
(10) その他

62年5月27日(水) 臨時教授会

理学部4号館1320号室

- 議 題 (1) 大学院問題について
(2) その他

理学博士の学位取得者

〔昭和62年2月23日付(3名)〕

専攻	氏名	論文題目
論文博士	木下 恒	チオシアン酸コバルト(Ⅱ)水銀(Ⅱ)アダクトの合成と結晶構造
〃	田村 要造	自由エネルギーとマッキーン型拡散過程の分布の収束
植物学	岡崎 芳次	汽水産藻類シラタマモ (<i>Lamprothamnium succinctum</i>) の膨圧調節に関する研究

〔昭和62年3月16日付(15名)〕

専攻	氏名	論文題目
論文博士	二木 昭人	Kahler-Einstein 計量と積分不変量
〃	宮谷 和雄	磁性半導体カルコゲナイドスピネルの磁性の研究
〃	額 額 一起	現実的媒質における理論地震記象：波動論的アプローチ
〃	浜田 信生	日本列島の内陸部に発生した被害地震に伴う地震活動の再調査とその地震学的意義
〃	大橋 陽子	FABMS および SIMS による複合脂質の構造解析
〃	中村 敏夫	ロイコトリエン B4 誘導体および labdane 型ジテルペンの合成
〃	押尾 茂	哺乳類精子に関する研究：新しい研究方法による精子性状の評価ならびに成熟精子の調整
〃	梶 真寿	ネコの視覚中枢における情報処理機構に関する研究
〃	ニシオカ リチャード	ティラピアにおけるプロラクチンと成長ホルモンの分泌調節機構
〃	戸栗 敏博	クラミドモナスのカーボニックアンヒドラーゼの生合成
〃	広瀬 正紀	ラン藻 <i>Nostoc cycadae</i> 連鎖体の滑走運動の研究
〃	森下 祐一	本邦における深熱水性、スカルン型および浅熱水性鉱床の酸素・炭素同位体組成
〃	鎌田 浩毅	中部九州における火山構造的陥没地の形成発達史と地質構造
〃	千木良 雅弘	岩盤クリープによる岩石の長期的重力変形
〃	高柳 英明	InAs 表面反転層の超伝導近接効果とその電界による制御に関する研究

〔昭和62年3月30日付(1名)〕

専攻	氏名	論文題目
論文博士	宇梶 裕	鎖状化合物における新しい遠隔不斉誘起反応の研究

〔昭和62年3月16日付(4名)〕

専攻	氏名	論文題目
数 学	青 木 昇	I. Fermat 曲線の Jacobi 多様体の単純因子と Fermat 曲線の積の Picard 数 II. Fermat 多様体上のいくつかの新しい代数的 cycle
"	市 村 文 男	円分体論に於る種々の巾級数について
動 物 学	楠 真 琴	ニホンヒキガエルにおける calling 行動発現機構の研究
地 理 学	奥 村 晃 史	海成地形面の変動からみた北海道の第四紀地殻変動

〔昭和62年3月30日付(87名)〕

専攻	氏名	論文題目
数 学	神 保 秀 一	領域の特異摂動と半線型楕円型方程式の解の挙動
"	藤 原 靖	楕円曲面の局所 moduli 空間の考察と応用
"	市 川 尚 志	アーベル多様体に付随する代数群
"	北 詰 正 顕	$\Omega^-(6, 3)$, $\Omega(7, 3)$, F'_{24} に対する Conway Fermat Curve - Norton 代数とその全自己同型群
"	杉 山 健 一	ケーラー錐の幾何学
"	寺 杣 友 秀	超曲面の完全交叉, フェルマーの場合, 2次の場合
情 報 科 学	鄭 喜 盛	ハングル(韓国語)情報処理
物 理 学	岩 田 康 嗣	$^1\text{H}(^{15}\text{N}, \alpha r)^{12}\text{C}$ 核反応によるタングステン(001)結晶表面の水素の吸着及び脱離過程の研究
"	大 和 壮 一	かにパルサーからの連続重力波の探索
"	プロディ エルマジェー	角谷距離の実空間繰り込みへの応用
"	青 木 慎 也	U(1)問題と格子QCD
"	朝 倉 伸 幸	REPUTE-1 における逆転磁場ピンチプラズマの平衡とMHD安定性
"	伊 藤 桂	コンパクト化された弦模型
"	池 上 健	「天馬」の観測による特異なX線源 CirX-1の降着現象の研究
"	小野木 敏之	2次元量子スピン系の臨界的性質-ST変換による研究-
"	大 熊 哲	乱れた金属中の電子輸送に関する実験的研究
"	大 淵 泰 司	一次元電子格子系の分数電荷ソリトン
"	柿 元 満	シリカエアロジェル中のポジトロニウムの運動に対する原子衝突の効果
"	門 脇 広 明	中性子散乱による三角格子反強磁性体の相転移の研究
"	坂 本 健	タイム・ドメイン・リフレクトメトリー法による水和した生体高分子の誘電的研究
"	鈴 木 勝	液体ヘリウム表面の研究
"	高 橋 忠 幸	電子陽電子消滅反応におけるQCDの高次効果の研究

専攻	氏名	論文題目
物理学	竹内 幸子	原子核の性質に対するクォークパウリブロッキングの効果
"	徳永 満喜洋	骨格筋ミオシンの構造－ATP結合部位及び軽鎖の位置
"	内藤 磨	トカマクTNT-Aにおけるイオンバーンスタイン波加熱の研究
"	中村 典雄	X線天体X-1608-52からのX線バースト
"	長岡 隆太郎	π 中間子- ${}^6\text{Li}$ 散乱と Δ ダイナミクス
"	原 隆	くりこみ群の立場から見た ϕ^4 系の構成的場の理論と厳密統計力学
"	福本 康秀	非圧縮性流体中における過度の動力学－移流、拡散及び自己誘導－
"	松尾 由賀利	振動励起分子の衝突過程
"	松田 祐司	モリブデンブロンズ及び酸化物の超伝導と電荷密度波
"	三尾 典克	極小距離における重力の逆二乗法則の実験的検証
"	村谷 博文	オービフォールド上の弦理論における振れた状態の放出のための頂点作用素
"	矢彦沢 茂明	混成弦理論におけるモジュラー不変性
"	山本 隆夫	線欠陥系の統計力学
"	吉澤 雅幸	トランス-ポリアセチレンのナノ秒時間分解光誘起吸収
天文学	市川 伸一	おとめ座銀河団の矮小楕円銀河の測光的研究
"	寺沢 信雄	ニュートリノの輻射崩壊と宇宙初期の元素合成
"	林 左絵子	L 723, CepA の四重分子流の構造と起源
"	半田 利弘	10 GHz 連続波による銀河面サーベイ観測
地球物理学	小木田 周三	岩石の摩擦すべり特性の実験にもとづく地震の力学的前兆現象の研究－特に前兆的地殻変動と地震活動について
"	中川 一郎	中部日本における地磁気地形補正を用いた長波長磁気異常の研究
"	長尾 年恭	新しい手法による東北日本・北海道の地殻熱流量の測定と地学的解釈
"	神崎 正美	高圧下の珪酸塩溶融体の物理的性質
"	望月 英二	非等方不均質地球の自由振動
化学	伊藤 治彦	CNラジカルの電子励起状態における分光学的性質の研究
"	石井 昭彦	立体的に保護されたチオ及びセレン・ホルミル化合物の合成と反応
"	大島 正裕	パラジウム錯体および陽イオン反応剤を触媒に用いる新しい合成反応の開拓研究
"	高橋 和也	月隕石を中心とした分化した隕石に関する化学的、年代学的研究
"	豊田 和弘	深海底堆積物とマンガン・ノジュールの地球化学的研究…特にセリウムの負の異常について
"	橋本 幸彦	陽イオン反応剤による選択的合成反応の開発
"	藤原 昌夫	クロロフィルの構造と振動スペクトル

専攻	氏名	論文題目
化学	矢ヶ崎 篤	電位差滴定法及び ^{31}P -NMRによるヘテロポリモリブデン酸アニオンの水溶液内平衡の研究
"	山田 徹	スズ, オスミウムならびにチタンの特性を活用する不斉合成反応の研究
"	山田 康洋	低温マトリックス中に単離した鉄カルボニル化合物のメスバウアー分光法による研究
生物化学	岡田 大助	ロドプシンの諸機能の再生
"	飯野 雄一	分裂酵母における減数分裂開始機構の分子遺伝学的研究
"	石館 周三	ウニ卵の新しいアクチン調節蛋白質: 20K蛋白質の精製とその性質およびその細胞内での機能について
"	太田 安隆	アクチンならびにアクチン結合蛋白質の生化学的研究
"	川上 浩一	コリシンE1レプリコンの複製に関する研究
"	木山 亮一	ヒトの組換え反応を起こしやすいDNA配列
"	儀我 祐子	ユニレクチン(エキノイディン)の四次構造とアミノ酸配列
"	北島 健	ニジマス卵ポリシアロ糖タンパク質の構造と機能-全化学構造の決定と受精に伴う低分子化現象の解析
"	北本年 弘	動物脂肪酸合成酵素の高次構造と機能
"	小谷 享	副腎微小管結合蛋白質の解析と190-kDa MAPの精製及び性質
"	齋藤 一樹	ジバチ毒ペプチド・マストパランの生理活性発現機構に関する物理化学的研究
"	田中 良晴	ショウジョウバエ筋肉のカルシウム結合性タンパクの同定
"	鳥山 優	卵細胞中心体の構成蛋白質とその機能に関する研究
"	渡邊 利雄	マウス・フレンド細胞の再分化に関与する細胞内因子の研究
動物学	金森 章	生殖腺刺激ホルモンによるアマゴ卵濾胞組織のステロイド産生制御機構
"	弥益 恭	ヌクレオソーム形成機構の研究
"	渡邊 信元	初期卵割ウニ胚のDNA複製機構についての研究
植物学	神田 東作	ヒトヨタケの子実体形成過程で合成される発生段階特異的タンパク質の遺伝生化学的研究
"	富澤 健一	エンドウフィトクロムcDNAの単離とその解析
"	上田 太郎	粘菌細胞の形態変化における細胞骨格の機能に関する研究
"	神田 穰太	貧栄養海域における植物プランクトンのアンモニアの同化と窒素循環
"	村上 哲明	ハウビンダ節(チャセンシダ科)の化学分類学的研究
"	谷川 由利子	Chlamydomonas および Porphyridium のカーボニックアンヒドラーゼに関する研究
人類学	針原 伸二	ヒトおよびカニクイザルのミトコンドリアDNAの地理的変異
地質学	海野 進	無人岩類の地質学・岩石学的研究-小笠原諸島父島-

専攻	氏名	論文題目
地質学	大藤 茂	秩父地同傾斜大陸縁辺部の後期古生代古地理変遷史 - 中国山地東部を例として -
"	近藤 康生	内生二枚貝類の化石化過程 - 現生および化石二枚貝における生息位置の比較観察
鉱物学	杉山 和正	リン酸三カルシウムの高密度相の構造とその結晶化学
相関理化学	川手 悦男	500 mKまでの AgBr 結晶内自由励気子の拡散とエネルギー緩和機構の研究
"	伊藤 健吾	無極性媒質中の過剰電子：超臨界状態 C 4, C 5 炭化水素中の電子移動度
"	尾崎 弘行	有機超薄膜のペニングイオン化電子分光
"	佐藤 裕徳	ニューカッスル病ウィルス弱毒株 D 26 の遺伝子とその産物の構造

[昭和62年4月27日付(3名)]

専攻	氏名	論文題目
論文博士	村松 照男	台風の構造の変化と移動に関する研究 - 台風 7916 の一生 -
"	絹川 博之	機械処理のための日本文構造の研究
"	武田 洋幸	哺乳類前立腺発生におけるアンドロゲン依存性組織間相互作用のステロイドオートラジオグラフィ法による解析

人事異動

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地物	助教授	杉浦 直治	62. 3. 16	採用	
数学	教授	岩堀 長慶	62. 3. 31	停年	上智大学教授
"	"	伊藤 清三	"	"	東京商船大教授
"	"	田村 一郎	"	"	東京電機大教授
物理	"	小柴 昌俊	"	"	"
化学	"	高橋 武美	"	"	日本大学教授
"	"	向山 光昭	"	"	東京理科大教授
動物	"	代谷 次夫	"	"	"
植物	"	古谷 雅樹	"	"	理化学研究所
数学	助教授	塩田 徹治	"	辞職	立教大学教授へ
植物	"	三好 泰博	"	"	静岡県立大教授へ
地質	教授	飯山 敏道	62. 4. 1	配置換	千葉大学教授へ
数学	助教授	楠岡 成雄	"	"	京大数理研助教授へ

所属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
数 学	教 授	増 田 久 弥	62. 4. 1	配 置 換	東北大教授より
物 理	”	壽栄松 宏 仁	”	”	筑波大教授より
天 文	”	内 田 豊	”	”	天文台教授より
数 学	”	落 合 卓四郎	”	昇 任	助教授より
”	”	大 島 利 雄	”	”	”
情 報	助 教 授	川 合 慧	”	配 置 換	教育用計算機センター助教授より
化 学	教 授	朽 津 耕 三	”	併 任	理学部長 63. 3.31まで
数 学	”	藤 田 宏	”	”	評議員 63. 3.31まで
生 化	”	宮 沢 辰 雄	”	”	評議員 62.10.11まで
物 理	”	有 馬 朗 人	”	”	素粒子センター長 64. 3.31まで
化 学	”	朽 津 耕 三	”	”	分光センター長 63. 3.31まで
中間子 客員部門	”	山 崎 敏 光	”	”	63. 3.31まで
素粒子 客員部門	”	山 田 作 衛	”	”	”
”	”	長 島 順 清	”	”	”
”	助 教 授	須 田 英 博	”	”	”
”	教 授	福 来 正 孝	”	”	”
中間子 客員部門	助 教 授	今 里 純	”	”	”
物 理	教 授	菅 原 寛 孝	”	”	62. 9.30まで
数 学	助 教 授	坪 井 俊	”	”	”
学際理学 客員講座	教 授	田 中 靖 郎	”	”	63. 3.31まで
”	”	清 水 幹 夫	”	”	”
”	”	河 島 信 樹	”	”	”
”	”	西 田 篤 弘	”	”	”
”	”	小川原 嘉 明	”	”	”
”	”	榎 野 文 命	”	”	”
”	”	奥 田 治 之	”	”	”
”	助 教 授	中 村 良 治	”	”	”
植 物	教 授	黒 岩 常 祥	62. 4.16	配 置 換	岡崎共同研究機構より
化 学	助 教 授	巻 出 義 紘	62. 5. 1	昇 任	”
物 理	教 授	石 原 正 泰	62. 5.16	採 用	理化学研究所より

所属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
素粒子	教 授	戸 塚 洋 二	62. 5.16	昇 任	

(助 手)

所属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理	助 手	岩 佐 泉	62. 3.20	辞 職	
地 質	"	市 川 健 雄	62. 3.31	停 年	
数 学	"	村 瀬 篤	"	辞 職	京都産業大講師へ
生 化	"	東 島 勉	"	"	
情 報	"	大 島 直 廣	"	"	沖縄国際大助教授へ
数 学	"	深 谷 賢 治	62. 4. 1	昇 任	教養学部助教授へ
物 理	"	植 松 恒 夫	"	"	京都大学助教授へ
"	"	小 玉 英 雄	"	"	"
"	"	東 島 清	"	"	高エネ研助教授へ
人 類	"	河 内 真紀子	"	転 任	工業技術院主任研究官へ
化 学	"	村 上 正 浩	"	"	京都大学助手へ
植 物	"	丸 田 恵美子	"	"	気象庁調査官へ
化 学	"	中 田 宗 隆	"	昇 任	広島大学講師へ
数 学	"	戸 瀬 信 之	"	転 任	愛媛大学助手から
"	"	小 林 俊 行	"	採 用	
"	"	神 保 秀 一	"	"	
物 理	"	村 上 洋 一	"	降 任	筑波大学講師から
"	"	小 川 格	"	採 用	
化 学	"	橋 本 幸 彦	"	"	
地 理	"	川 口 太 郎	"	"	
中 間 子	"	岩 崎 雅 彦	"	"	
数 学	"	中 島 啓	"	"	
物 理	"	石 井 克 哉	62. 4.16	配 置 換	工学部へ
化 学	"	山 田 正 理	"	復 職	
物 理	"	小 野 嘉 之	"	休 職	
"	"	北 澤 良 久	62. 5. 1	採 用	
生物化学	"	高 橋 孝 行	"	"	
人 類 学	"	高 橋 秀 雄	62. 5.16	"	

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	技官	宇田 毅	62. 3. 16	採用	
"	"	春山 久一	62. 3. 31	勤務延長 任期満了	
"	"	平野 光康	"	定年	
地物	"	長田 多美子	"	"	
"	"	丸山 恵子	"	"	
"	事務官	斎藤 重子	"	辞職	
生化	"	岩谷 緑	"	"	
事務部	事務長	戸張 喜之	62. 4. 1	昇任	医科研事務部長へ
"	人事掛主任	渡部 健一	"	"	国立歴史民族博人事掛長へ
"	事務官	小宮 昌信	"	"	大型計算セ庶務掛主任へ
"	"	古泉 弘志	"	辞職 配置換	千葉県教育委員会へ
情報	事務室主任	吉野 敏夫	"	配置換	教育学部教務掛主任へ
事務部	事務官	三科 旭	"	"	新聞研へ
物理	"	福澤 英子	"	"	施設部企画課へ
事務部	事務長	野島 博	"	"	生研総務課長から
"	研究協力掛長	福島 玉男	"	昇任	大型計算セ庶務掛主任から
"	人事掛主任	小林 一雄	"	配置換	経済学部厚生掛主任から
"	事務官	杉本 美也子	"	"	庶務部入試課から
"	"	佐々木 守	"	"	庶務部人事課から
物理	"	高橋 夏実	"	採用	
地物	"	太幡 恵美	"	"	
物理	技官	平野 光康	62. 4. 2	再任用	
事務部	事務官	上原 功	62. 4. 16	配置換	庶務部人事課から

外国人客員研究員

所属	受け入れ 教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
動物	佐藤助教授	中華人民 共和国	蔡 浩然	北京清華大学助教授	62. 4. 6 63. 2. 5	

所属	受け入れ 教官	国 籍	氏 名	現 職	研究員期間	備 考
物 理	宮沢教授	アメリ 合衆国	STEVEN, C. FRAUTSCHI	カリフォルニア工科 大学教授	62. 4. 5 } 62. 7. 3	
物 理	二宮教授	日 本	江 上 毅	ペンシルバニア大学 教授	62. 4. 20 } 62. 6. 20	
中間子	永嶺助教授	アメリ 合衆国	Steven Chu	ベル研究所主任研究 員	62. 5. 10 } 62. 6. 15	
中間子	永嶺助教授	アメリ 合衆国	Allen P. Mills, Jr	ベル研究所研究員	62. 5. 11 } 62. 6. 15	
中間子	永嶺助教授	アメリ 合衆国	Tara Prasad Das	ニューヨーク州立大 学教授	62. 5. 15 } 62. 8. 15	

昭和62年3月28日卒業者

数 学 科

常 包 泰 樹	阿 原 一 志	石 川 勝一郎	榮 田 厚 彦
小 泉 泰 則	小 林 真 人	小 山 明 夫	佐 伯 明 洋
田 邊 晋	中 山 均	成 瀬 豊	原 田 一 幸
浅 野 淳	伊久間 恒	伊地知 寛 博	今 井 敏 行
江 頭 信 二	太 田 博 之	大 畑 幸 一	落 合 啓 之
乙 藤 隆 史	河 澄 響 矢	鬼 頭 勉	木 原 浩
小 林 正 典	小 松 宏 行	今 野 宏	齋 藤 貴 志
澤 邊 義 明	清 水 誠	杉 本 真	鈴 木 雅 延
高 倉 樹	武 部 尚 志	田 中 敬 一	田 邊 彰 子
出 耒 信 一	中 垣 典 昭	中 村 博 昭	橋 本 剛
畠 山 聡	林 明 男	藤 井 道 彦	藤 原 一 宏
丸 山 文 綱	安 井 義 浩	渡 邊 純 成	中 島 徹

(48名)

情報科学科

西 川 誠 自	青 木 保 一	芦 原 評	麻 生 武 男
石 井 利 佳	宇和田 弘 美	金 那 美	齋 藤 誠 晴
佐 野 建 樹	品 川 嘉 久	妹 尾 寛 司	高 橋 信 幸
津 田 宏	中 山 健	幡 谷 友 宏	藤 波 順 久
前 田 潤 治	松 本 眞	屋 代 哲 郎	安 田 和
芳 野 義 浩			

(21名)

物理学科

榎田寛朗	田尻真介	河野祐一	坂井徹
棚橋信勝	成清修	平井一成	間野肇
三浦薫	青木隆明	安藤陽一	石田邦夫
石田学	井戸川聡	江尻晶	遠藤哲郎
大澤進	大関洋	岡本徹	奥田智樹
小田信之	小野勝己	加藤昌之	川島直輝
木下佳典	車俊之	洪鋒雷	好村滋行
小松原健	酒井邦嘉	坂尾太郎	櫻井博儀
佐藤堅	佐藤哲	篠田浩一	白井明
鈴木昭人	瀬口仁勝	泰地真弘	多々良源
田中義司	土明正勝	鶴剛	出口哲生
徳永英毅	中津了勇	中野勉	新村泰英
西岡毅也	長谷賢一文	花田直彦	日比野浩樹
平野琢也	福間將和彦	古川勝高	古川信夫
松浦徹	三沢田匡哉	水崎利健	三谷宏治
美濃島充弘	山村田章一	毛島哲	森脇喜紀
山中村英史			輪湖公一

(69名)

天文学科

熊谷紫麻見	高遠徳尚	藤堂泰	廣瀬雅人
三好真			(5名)

地球物理学科

及川純	岩瀬良一	大淵济	岡元太郎
小沢慎三郎	片岡洋	河野英昭	河野祐一
小菅芳之	鷺谷威夫	須田一人	武井達明
竹廣真一	多田英夫	田近英一	中島慎一
原辰彦	藤本正樹	松園正子	山下実若
吉田康宏	綿田辰吾	大内彩子	(23名)

化学科

安藤淳	安藤耕司	泉康雄	伊藤文之
稻垣裕子	犬飼潤治	上野啓司	臼杵克之助
大川祐司	岡内辰夫	小島元	加藤隆志
加納優子	河井玲子	岸本洋一	北風徹
組橋孝生	公文直子	小林信恵	佐々木茂
佐々木岳彦	佐藤康博	志方比呂基	紫藤貴文

化 学 科

白 鳥 裕	杉 森 純	園 田 与理子	滝 口 尚 良
瀧 本 康 幸	田 中 泰 弘	乳 井 健 司	遠 嶋 康 徳
鳥 居 肇	内 藤 幸 人	中 村 美 織	西 村 民 樹
濱 口 美 保	平 原 靖 大	藤 原 佳 子	松 田 直 子
嶺 千 登 世	森 田 勇 人	山 門 英 雄	(43名)

生物化学科

石 井 孝 司	稲 田 利 文	今 井 義 幸	岩 田 洋 介
岸 林 伸 行	小 出 寛	河 野 俊 之	後 藤 聡
坂 本 健 作	重 松 亮	篠 原 由 季 子	須 賀 比 奈 子
杉 本 亜 砂 子	平 澤 明	藤 田 純 子	藤 原 康 策
山 口 寛 人	吉 垣 知 能	吉 川 真 悟	吉 田 哲 郎
			(20名)

生物学科 (動物学)

山 田 一 実	市 野 素 英	坂 本 竜 哉	関 根 浩 二
田 守 正 樹	仲 岡 雅 裕	吉 原 基 二 郎	(7名)

生物学科 (植物学)

高 橋 卓	谷 田 以 誠	西 川 周 一	長 谷 部 光 泰
廣 澤 卓	増 田 理 子		(6名)

生物学科 (人類学)

川 崎 和 彦	下 条 晴 義		(2名)
---------	---------	--	------

地学科 (地質学, 鉱物学)

淺 井 栄 一	市 川 潤 一 郎	伊 藤 治	今 井 亮
小 澤 大 成	川 邊 禎 久	佐 藤 晴 彦	高 久 暁
田 中 雅 彦	水 野 達 也	八 代 孝 志	谷 田 貝 悟
			(12名)

地理科 (地理学)

石 井 浩 史	小 松 伸	澤 村 和 彦	島 崎 隆 英
須 貝 俊 彦	西 畑 正 文	升 本 恵 子	一ノ瀬 俊 明
			(8名)

(合計 264名)

海外渡航者

(6カ月以上)

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
物理	助教授	十倉好紀	アメリカ合衆国	1.30～ 63. 1.30	有機強磁性体およびその他の有機電荷移動体の磁気的光学的物性の研究のため
植物	助手	広瀬忠樹	オランダ	3.1～ 63. 2.28	植物性態学に関する研究のため
動物	〃	深町博史	アメリカ合衆国	4.1～ 63. 3.31	発生生物学に関する研究のため

昭和62年度科学研究費補助金採択（内定）さる

本年度科学研究費補助金の交付申請に対し、4月30日付で、本学事務局経由により同補助金の採択（内定）の通知がありました。（特別推進研究(1)、(2)は7月下旬交付内定のため未定）

理学部関係の申請件数および採択件数は次表のとおりで、総額760,900,000円（遺伝子実験施設3,920,000円：外数）でした。

昭和62年度科学研究費補助金理学部申請・採択件数一覧表

昭 62. 6. 1 現在

区分 研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
特別推進研究 (1)	2 (2)				
特別推進研究 (2)	3 (3)				
がん特別研究 (2)	2			1	50.0%
核融合特別研究 (2)	3			2	66.7
重点領域研究 (1)	12 ①			10 ①	83.3
重点領域研究 (2)	26 ①			12	46.2
特 定 研 究 (1)	10 (1)	9	0	9	90.0
特 定 研 究 (2)	14 (1)	6	0	6	42.9
綜 合 研 究 (A)	21 (10)	1	10	11	52.4
綜 合 研 究 (B)	7			3	42.9
一 般 研 究 (A)	23 (9)	6	9	15	65.2
一 般 研 究 (B)	52 (16) ①	13	16	29	55.8

区 分 研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
一 般 研 究 (C)	82 (14)	22	14	36	43.9
奨 励 研 究 (A)	64 ①			37 ①	57.8
試 験 研 究 (1)	5 (3)		3	3	60.0
試 験 研 究 (2)	23 (2)	1	2	3	13.0
合 計	349 (61)④	58	54	177 ②	50.7

なお、奨励研究A特（日本学術振興会特別研究員分）についても35件の採択通知があった。
 昨年は申請件数342件、採択件数179件、採択率56.8%であった。

() 継続申請：内数 ○ 遺伝子実験施設：外数

東京大学職員の永年勤続者表彰

昭和62年3月31日付で、定年（含勸奨）退職される下記職員に対する総長からの表彰状、記念品（勤続10年以上の者）が3月25日（水）正午、学部長室において、有馬学部長から伝達された。

記

(物 理) 平 野 光 康
 (") 春 山 久 一
 (地 物) 長 田 多 美 子
 (") 丸 山 恵 子
 (生 化) 岩 谷 緑
 (地 質) 市 川 健 雄

昭和62年4月11日（土）午後3時から神田学士会館において、永年勤続者（20年勤続）表彰式があり本学部勤務者のうち次の方々が表彰を受けた。

記

(事 務) 福 島 玉 男
 (") 金 子 博
 (物 理) 樫 村 圭 造
 (天 文) 菊 池 三 恵 子
 (生 化) 大 崎 敏 子
 (臨 海) 関 本 実

理学部長と理職の交渉

理学部長と理学部職員給合との交渉は、昭和62年2月23日、3月16日、3月23日に有馬前学部長と、また4月27日に朽津学部長と行なわれた。主な内容は以下のとおりである。

1. 専門行政職俸給表適用問題について

人事院は教室系技官の組織整備の一助として昭和62年度定数改訂による行（一）6級枠の増18を

認めた。これを受けて理学部は技術系職員の組織化についての考え方とそれに基く組織構成の一例案を3月の主任会議で検討した。

理職は、技術系職員に対して組織化案の説明がなされていないことに抗議し、技術系職員会体を対象とした説明会を早急に開くよう要求した。これに対し前学部長は、その予定であるので近日中

に実行することを約束した（3月24日に実施）。

説明会で提示された組織化案については、理職は、待遇改善につながらずに部課長制を導入する案であり、職種別技術室の運営上も問題がある。また職員間にも混乱が生じる危険性が高い、との理由で反対の意を表明した。さらに理職は、専行職移行への条件整備が整うまでの暫定的な組織案として、技術部長（仮称）の下に、各教室1～若干名の主任技術官（仮称）を6級としておく理職案を提案した。

これに対し、学部長は基本的に前学部長の意向を尊重しつつ、組合の意見も参考に、昭和62年度の企画委員会で改めて組織化案を検討してゆく方針である、と回答した。

2. 大学院改革について

理職は、理学部で検討が進められている理学院（仮称）構想に関し、それは現在理学部がかかえている問題点を解決する案であること、教官に任期制を導入する方策は立案しないこと、案は早急に公表し、全構成員から広く意見を求めること、を要望した。また、大学院充実が全学的検討課題となってきたが、総長が私的に作成したような、東大中心的な改革案には反対の意を表明した。

これに対し、有馬前学部長は、大学院改革に関する意見は、どんどん出してほしい。理学部で大学院を充実させることは全国九大学理学部長の総意で、東大はその突破口である。文部省直轄の研究所と大学の格差が大きく、何とかする必要がある。全学的構想については、総長の案は一つの例であり、構想の中心になるものではない。全学的合意に達すれば63年度概算要求で調査費を要求することになる。たとえ全学の合意が得られない場合にでも、もし可能ならば理学部としては先行し

て概算要求を提出することさえも考えている、と回答した。

また朽津学部長は、当面は全学の動向をみながら、全階層の人が参加できる場を夏頃までには設定したい、と回答した。

3. 行（二）職員の待遇改善について

理職は、民間から行（二）で採用した技術職員1名を早急に行（一）にふりかえるよう要求した。

これに対し前学部長は、手続きはとっているが、行（一）のポスト（定数）がなくふりかえができない。今後も努力はしてゆく、と回答した。

また行（二）に関する諸問題について適宜組合と学部当局との間で懇談会をもつことが合意された。

4. 東京大学寄附講座及び大学審議会設置法案について

標記の件については、理職は大学自治を犯す危険性が高く、学部長に反対の意を表明するよう要望した。学部長は、寄附講座でも大学の自宅性は守られるはずである。理学部には今のところ設置の予定はない。大学審議会法案の内容はよく知らないので勉強したい、と回答した。

5. その他

職員の昇格、教務職員の助手化、定員外職員の定員化等の懸案事項について、理職は前学部長に任期中に解決するよう強く要求した。これに対し前学部長は努力を約束したが、事態は解決にいたらなかった。これらの事項については、引き続き学部当局として努力してゆく方針が、学部長から表明された。

また、1号館中央化構想について、学部長は、事務室や図書室の統合は考えていない。現在基準面積を広げる方策を検討中である。案が固まり次第公表したい、と述べた。

各号館（運営委員）長名簿

（62.4.1現在）

号館名	所属	職名	氏名	内線番号	任期
1	物理	教授	清水忠雄	4167	62.4.1～63.3.31
2	地理	教授	鈴木秀夫	4572	62.4.1～62.7.31
3	地球物理	教授	小嶋稔	4300	62.4.1～63.3.31
4	物理	教授	小林俊一	4157	62.4.1～63.3.31
5	数学	教授	木村俊房	4045	62.4.1～63.3.31
7	情報	教授	後藤英一	4113	62.4.1～63.3.31
化学	化学	教授	黒田晴雄	4331	62.4.1～64.3.31

（2号館：4ヶ月交替・地理→植物→人類→動物→地理）

教室主任・施設長等名簿

(昭 62.4.1 現在)

教室・施設名等	教室主任 施設長等氏名	電話番号	自宅電話番号 (緊急連絡先)
数 学 教 室	木 村 俊 房	4045	
情 報 科 学 教 室	国 井 利 泰	4116	
物 理 学 教 室	上 村 洸	4225	
天 文 学 教 室	堀 源一郎	4257	
地 球 物 理 学 教 室	佐 藤 良 輔	4293	
化 学 教 室	黒 田 晴 雄	4331	
生 物 化 学 教 室	酒 井 彦 一	4396	
動 物 学 教 室	高 橋 景 一	4426	
植 物 学 教 室	田 沢 仁	4457	
人 類 学 教 室	尾 本 恵 市	4482	
地 質 学 教 室	久 城 育 夫	4506	
鉱 物 学 教 室	床 次 正 安	4541	
地 理 学 教 室	鈴 木 秀 夫	4572	
臨 海 実 験 所	水 野 丈 夫	4431 0468(81)4105~7	
植 物 園	岩 槻 邦 男	(814)0138~9	
地 球 物 理 研 究 施 設	小 口 高	4590	
分 光 化 学 セ ン タ ー	朽 津 耕 三	4334	
中 間 子 科 学 実 験 施 設	宮 澤 弘 成	4133	
地 殻 化 学 実 験 施 設	富 永 健	4346	
素 粒 子 物 理 国 際 セ ン タ ー	有 馬 朗 人	4121	
遺 伝 子 実 験 施 設	飯 野 徹 雄	4465	
学 部 長	朽 津 耕 三	4000	
評 議 員	藤 田 宏	4043	
評 議 員	宮 沢 辰 雄	4391	
事 務 長	野 島 博	4001	
事 務 長 補 佐 (総 務 担 当)	蓮 見 公 一	4002	
事 務 長 補 佐 (経 理 担 当)	土 居 喜 公	4004	
学 務 主 任	田 中 満 嘉	4003	

編 集 後 記

大学院の改革も理学部はじめ学内で積極的な論議が交わされております。昨年度に引続き今年も理学部の将来問題に重点を置いた記事を随時掲載していこうと考えております。いろいろな立場の方々からの投稿を期待しております。また表紙に使用する写真等も募集いたします。編集委員にご連絡下さい。

山崎敏光先生（核研・物理専攻）が恩賜賞・学士院賞，上田誠也先生（地震研・地球物理専攻）と豊島久真男先生（医科研・生物化学専攻）が学士院賞をそれぞれ受賞されました。紙面をかりて御祝い申し上げます。

（田賀井）

編集

田賀井 篤 平 (鉱物)	内線	4544
高 橋 正 征 (植物)		4474
佐 藤 勝 彦 (物理)		4207
横 山 茂 之 (生化)		4393
佐佐木 行 美 (化学)		4359